

信州大学「信州データサイエンスプログラム（リテラシーレベル）」

令和7年度前期 自己点検・評価書

信州大学全学教育センター長

杉本 光公

信州大学全学教育センター データサイエンス教育部門長

平井 佑樹

1. 点検の概要

令和7年9月に開催された当部門会議において、本プログラム（リテラシーレベル）の修了に必要な科目である「データサイエンスリテラシー（以下、本科目）」の実施状況・成果について点検・評価を行った。

点検にあたり、当部門長から次のとおり報告があった。

- ・ 本科目の単位修得状況・成績について
 - 令和7年度前期の単位修得状況や成績分布は概ね例年どおり（再履修者を除く前期履修者の単位修得率は92%）である。
 - 単位修得率が9割未満となっている部局では特に注意が必要である。
 - 令和8年度から4年次履修者がいる。本科目は全学必修であるため注意が必要である。
- ・ 学生による授業アンケートの結果について
 - 「達成感が得られた」の回答者平均値について、これまでの最大値を更新した。
 - 前期履修者は比較的授業外学習時間が多い傾向がある。
 - アンケート回答率が令和6年度後期から10ポイント程度改善した。
- ・ 本科目独自のアンケート結果について
 - 本科目の良い点については、昨年度と同様に、「情報社会を知ること」や「知識獲得」に関する意見が比較的多かった。
 - 本科目の改善点についても、昨年度と同様に、「資料の多さ」や「小テストの難しさ」を指摘する意見が比較的多かった。
 - 学習方法に関する後輩へのアドバイスについても、昨年度と同様に、「自分で理解する・調べる・考える」ことなど、主体的学習を促す意見が比較的多かった。
- ・ 「資料の多さ」に関する意見について、本科目では、科目全体で45時間の学習となるよう、授業1回あたり（おおむね1週間あたり）5時間程度の学習量になるよう教材を提供している。しかしながら、本学で実施している「学生による授業アンケート」の結果を確認したところ、「1週間あたりの授業外学習時間」として、8割以上の回答者が「2時間未満」を選択していることから、資料が多いとは言い切れないと判断した。

その後、部門長から、令和 7 年度後期での開講に向けて「教材を再度整理すること」や「学習の進め方について、より丁寧に説明を行う必要があること」が示され、部門員でそれを確認した。

2. 評価の概要

学生による授業アンケートにおける「達成感が得られた」について、回答者平均値の最大値を更新するなどがあり、科目全体として大きな問題点は特に見当たらなかった。前年度に引き続き、前述の本科目の改善点に関する対応を行いつつ、各期前半開講科目での単位修得率向上を目標として、今後も授業運営を行っていくことを確認した。

以上